



発行所：特定非営利活動法人 ベトナム子ども基金

〒113-8642 東京都文京区本駒込2-12-13 アジア文化会館内

電話/FAX：03-3945-2415

電子メール：info@v-c-f.org

ホームページ：http://www.v-c-f.org/

ベトナム子ども基金通信

No. 66
2016. 2. 10

ベトナム子ども基金設立20周年記念号



光武まち子さん、ロンアン省のドンタイン小学校を訪問（2015年9月8日）

ごあいさつ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

皆さまにはいつもベトナムの恵まれない子どもたちにご支援・励ましをいただき、心より感謝申し上げます。

子ども基金の活動は、20周年を迎えました。ほんの数名で始まったささやかな活動は、質的にも量的にも急速に成長し、現在では多くの里子を毎年安定して支援できる規模となりました。これもひとえに会員の皆さまのおかげと事務局一同深く感謝しております。

この20年間のベトナムの経済発展は著しく、町並みも人々も大きく変化してきました。大都市ではお

しゃれな若者がスマートフォンを持って闊歩かつぱしています。戦争の時代や貧しかった時代のことをよく知らない若い世代がどんどん増えています。しかし依然として、経済発展の恩恵を十分に享受できない多くの貧しい人々があり、子ども基金の使命はますます重要になっていると感じられます。特に都市部と地方の格差は驚くべきものがあり、支援を必要とする子どもたちは数知れません。

20周年を一つの区切りとして過去の活動を振り返り、問題点、改善点を冷静に見極めた上で、ベトナム子ども基金はより一層の飛躍を図るとともに新たな時代に順応した活動を進展させていきたいと考えます。例えば子ども基金はこの春か

ら「認定NPO法人」の認可を得る予定です。これは子ども基金の活動を社会的に認知していただくとともに、さらなる発展を期する重要なターニング・ポイントとなるに違いありません。認定法人となることで、会員の皆さまの寄付金は所得税控除の対象となります。

20周年のこの機会に、事務局一同心を新たにして、今まで以上に一生懸命努力する覚悟でございますので、なにとぞ倍旧のご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願いして20周年のごあいさつといたします。

敬具

ベトナム子ども基金
理事長 近藤 昇

想 う こ と

原稿依頼を近藤さんより受けてから、手の中に眠る10月に生まれたばかりの初孫を抱きながら考えた。

10～20代の頃、ベトナム戦争があった。ベ平連が運動し、日本人の責任を問うていた。驚いたことに、ベトナムは軍事力を誇る大国、フランス、アメリカに勝利した。しかし、多くの人々が殺され、雨のように爆弾が降り注いだ大地は荒廃し、枯葉剤の影響で異常胎児が生まれた。

その後、長女、次女が生まれた。娘を抱きながら思ったのは、人は地球上のどこの土地で生まれ、どんな両親の下に生まれたかにより、無^む辜^こな命の行く末が左右される。そのことに胸が痛んだ。無^む垢^くな命に軽重がある。そう思うと、私は今、この場に立ち何ができるのかを考え続けていた。そんなときに当会を知り、一員としていただいた。

私には富山、埼玉で農を営み、また新潟で農村支援員をする古くからの友人がいる。近年、限界集落という不^ふ逞^{てい}な名付けをされた土地もある。友人たちはその地の大地の力を糧として生き続けている。もうひとつ、生きる力の糧ということと言うなら、友人たちの生きる姿を私たちの側が共感し、尊敬を持って見つめ続けていることが、友人たちへの応援歌になっているのではないかと感じる。

人は皆、どこかからか、誰かしらが私の生きることを何となく気にかけて、見ていてくれている、応援していてくれると感じると、うれしく、生きる力が湧いてくるのではないだろうか。応援するに、金あるものは金を、力あるものは力を、知恵あるものは知恵を、何もないものは寄り添うことで見つめ続けられるのではないか。そう思い、ベトナムを見続けようと思った。

数年前、事務局のお世話を受け、次女と現地を訪ねた。そのとき、出会った家族、支援者とは、家族愛に近い感情が湧いてきた。心地よかった。私は家族を、「そのとき、その場で、食卓を囲む人間同士」と解釈している。そんな家族が生まれる瞬間に加わられた。うれしかった。

これからも当会の一員でいたい。

(幕内 英明)



幕内英明さんと里子たち。2011年11月、ロンアン省にて

ベトナム子ども基金に思う

ベトナム子ども基金と私をつなげたのは90年代初め頃のある新聞記事でした。ホウエ先生の記事です。それまでのベトナムについての私の関心は、世界一の軍事大国アメリカに勝利したアジアの国としてでした。ベトナム解放戦争はアメリカ軍からの特需があったからこそ日本の高度経済成長の土台ができたといわれていました。ベトナム解放戦争では日本製の工業製品や生活用品があってアメリカ軍は爆撃したはずですが。ナパーム弾の残酷さを知り日本軍が中国やアジアでやったであろうむごさを思いました。驚きました。軍需工業製品など先進国にまったくかなわない植民地でもフランス、アメリカの宗主国を打ち負かしたのです。ベトナム人の人智・アタマとココロには学ばなければならないと私は考えました。それで私はベトナムからは目を離せなかったのです。私にベトコンとあだ名をつけた人がいました。それでホウエ先生を知るようになったのでした。

ホウエ先生が東京で学んでいたときに他のベトナム人留学生は非常に悩んでいることを知ったようです。日本語が難しくて本当に学びたい専門分野の学習に打ち込めないというのでした。「新星学寮」と同じような寮を仲間3人と一緒に造って日本流の暮らしを共にすることが日本語が最も身につくと考えたようです。ホウエ先生は日本にやってきて既に10年もたっていたので専門用語だけでなくどうやったら日常の日本語を覚えられるか知っていたようです。6人で始めた「東遊学舎」のためにホウエ先生は自らの奨学金を全てつぎ込んだといいます。穂積五一先生など周りの応援も得て後輩たちのために大奮闘したようです。

ホウエ先生は語っています。

「寮に入って、それまでは学問一筋で目に入らなかった一般の留学生のことに気がついたんです。初めてベトナム人留学生会にも参加して積極的に活動に関わりました。そういう意味で新星学寮は私の人生を狂わせたんです(笑)」

(月刊「アジアの友」第491号 2011年6月発行)

自主・自立・自治の集団生活ができてこそ人間は自立できるという日本のココロを捉えたのだと思います。「東遊学舎」は東遊運動と新星学寮の精神を発展させたホウエ先生の到達点だと思います。それが6年間「全身全霊でやってきた」ホウエ先生が1974年に帰国するとき、誰もホウエ先生の役を引き継ぐ人がいなかったというのです。

1974年1月にベトナムに帰ったホウエ先生はベトナム解放戦争の終末と勝利の激変の時代を生きて独立の国づくりのために日本で学んだアタマとココロの知恵で創造的に生きたようです。そのひとつが青葉奨学会だと知りました。

私は日本の敗戦を9歳で迎え、東北地域の農村の極貧の母子家庭で育ったのです。村のおじいさん、おばあさんの知恵で山羊と鶏を飼って母子は生きたのです。母は村でたった一台のミシンを持っていたからです。この世の地獄を味わったものこそ本当の家内安全の家庭をつくれると思います。村内安全があってこそ家内安全もつくれると思います。ベトナムは国家安全があってこそ村内安全が保たれると国民が団結したからこそ勝利できたのだと思います。

村内安全と五穀豊穡を祈る村祭りを冬半年間の稲作農閑期にやってきたのが東北地域の農村です。八百万の神々の中から村中で願うことで助けてくれそうな神様を村に招来して共に語り合ったのです。東北地域の農村は年に30日夜も村中で語り合っていたのです。村内の誰もが助け合って生きるための語り合いがあったのです。司馬遼太郎は莊内地域の人智を高く評価しています。芭蕉は奥の細道を訪ねたのは不易流行を求めてといっています。村でみなが生きて人智を育てていたのです。おしんの生きる力を育てた向上心です。江戸時代は天明の大飢饉ききんで仙台藩領内だけでも40万人の餓死者が出たといわれます。津軽藩領内では2人に1人の百姓が餓死したといわれます。でも武士は餓死したと記されていません。東北地域の農民は天災だけでなく人災の被害者でした。日本がベトナムを支配していたときに200万人も餓死したと聞いたことがあります。支配者は犠牲者のアタマとココロが分からないのが常だと思います。

日本の東北地域の貧困者とベトナムの田舎の人々は今共に本当の自主・自立・自治の村づくりを考えなければならないようです。

(塩野 俊恭)

「ベトナム子ども基金20周年」を祝う

20周年おめでとうございます。私のような資金援助しかしていない者への原稿依頼誠に恐縮です。

私のささやかな送金も20年たったとのことで、もうそんなに日が過ぎたのかと感慨深いものがあります。ベトナムの貧しくて学業を続けるのに困難があるという子どもたちへの資金援助の主旨にとっても賛同し、かつ、ベトナムの子どもたちからお手紙をいただけるというこの里親里子の制度にとっても魅力を感じ、20年援助を続けることができました。小学校低学年だった子どもたちが高校を卒業し、奨学金が終わったりもしました。

子どもたちから定期的にお手紙をいただいているのですが、私の怠慢からお返事を書かないことが多く、本当に子どもたちにはとても申し訳なく思っております。

手紙をやりとりした子どもたちからはいろいろなことを伺いました。ご家族の経済的に苦しい状況、それにもかわらず、家のお手伝いや学業に頑張っている様子を伺ってとても感心しました。その感動が、20年資金援助が続いた原動力になったのだと思います。また、「どう生きたらよいか」という人生相談をされたこともありました。これはまだ実現していませんが、「日本に行って里親さんに会いたい」とうれしいことを言っていたこともありました。

ベトナム子ども基金の方々やっという事は本当に有意義な事業ですので、資金援助をする人、グループがもっとも増えることを願っています。私も今後とも微力ですが、協力を続けていきたいと考えています。

(古池 幸生)

ドンズー日本語学校とティック・クアン・ドゥック

1997年に約10カ月間、ホーチミン市にあるドンズー日本語学校にベトナム語の勉強に行っていました。

ドンズー日本語学校は、元日本留學生のグエン・ドク・ホウエさんが1990年に設立した学校です。ドンズーの意味は“東遊”です。明治時代に独立を目指すベトナムの志士ファン・ボイ・チャウたちは日本に来て、祖国の発展を目指して東遊運動を展開していました。しかしこの運動は明治政府によってつぶされてしまいました。

“ベトナム子ども基金”が支援する“青葉奨学会”はこのドンズー日本語学校の中にあり、その当時のベトナム人スタッフは3人でした。私も午前中の授業が終わってから、ここの仕事のお手伝いをしていました。この年は日本から子ども基金のツアーが来たりして、その活動はなかなか活況を呈していました。

今記憶に残っているのは、スタッフの中年男性フエさんのことです。ある日フエさんは“ティック・クアン・ドゥック師の集まり”に参加すると言って早退しました。

ティック・クアン・ドゥックは1963年に、時の大統領ゴ・ディン・ジェムの仏教政策に抗議して、焼身自殺した僧侶です。

当時私はベトナム語を勉強しているとはいえ、まだまだ大した実力もなく、その集まりに参加しても、内容は分からなかったと思いますが、今でもあのときフエさんに集まりに連れていってもらったらよかったのにと、残念に思っています。

日本に帰ってきてからは、子ども基金の事務局を手伝ったり、里子の手紙や履歴票の翻訳をしています。今もベトナム語の勉強は続けていますが、我ながら進歩が遅く、もどかしさを感じています。

写真はそのティック・クアン・ドゥックが最後まで僧侶をしていた、ドンズー日本語学校からバイクで20分ほどのティック・クアン・ドゥック通りにある観世音寺です。

(南 康雄)



ティック・クアン・ドゥック通りの観世音寺



トナムからの 手紙

元里子の手紙

子ども基金に
感謝を込めて



フィン・ファム・トゥアン・アン

私は青葉奨学生でベトナム子ども基金の学生でした。今31歳です。当時の思い出を書かせていただきます。

私は中学生から青葉奨学金をもらいました。青葉奨学会の先生をよく思い出しています。

ホウエ先生、リエン先生、ヒエン先生、フォン先生、トゥ先生、明代さん、加代子さんです。皆さんは奨学金を渡してくれただけではなく、いろいろないいことを教えてくださいました。心から、ありがとうございます。

そして、日本の子ども基金のスタッフの代表 近藤さま、里親さま、ありがとうございます。今、私は日本のモノづくりの会社で働いています。生産計画という業務を担当しています。

愛と誠意で育てられ



ゴ・ニュ・ヒエン

天は本当に平等だといえます。一人の人に全てを与えることもなく、全てを奪うということもありません。一本の道は、別の道に続いています。決して行き止まりではありません。挑戦の奥に隠されたものは、天が与えてくれたチャンスです。

私の家族が多くの困難の中にあっ



ゴ・ニュ・ヒエンさん(右から3人目の女性)とフィン・ファム・トゥアン・アンさん(左から3人目の男性)

たとき、両親は私たち姉妹を育てるために衣食住の苦勞を背負わなければなりません。けれど、チャンスが来ました。それは青葉奨学会です。青葉奨学会は、授業料を払い本やノートを買うための支援をしてくれただけでなく、私を誠意と愛で育ててくれました。

ただ愛でのみ、ホウエ先生はベトナムから遠い国へ行って、支援者や友人たちに呼びかけ、私たちに奨学金をもたらしてくださいました。皆さんが汗して得たお金を、おそらくは一度も会って話をしたことのないベトナムの子どもたちに贈るために、ただ愛を持ってのみ子ども基金事務局の皆さんは懸命に仕事をしてくださいました。

そして、自分の時間を犠牲にしなければならないのに仕事をする青葉奨学会の事務局の皆さんの原動力は、ただ愛だけです。雨の日も、日照りの日も、奨学金申請の審査をし、奨学金支給の準備をしてくださいました。そして、奨学金支給以外にも、楽しく意義深いイベントをしてくださいました。

青葉奨学会は、本当に私たちの家のように。温かく愛ある家です。皆さんは、自分の本当の子どものよ

うに私たちを慈しんでくださいます。共に奨学金をもらっている子どもたちは、一つの家族のきょうだいのように親しくなり、助け合います。そして、共に社会に役立つ良い人間になれるように一生懸命勉強するのです。

私たちは20年、この家で暮らしてきました。近くにいることはなく、同じ時間を数えることはできませんが、同じことを学び、同じ親しみをもち、経験と成長、この素晴らしい家への誇りを私たちにくれました。家ですから、衝突もあるし、悩まされることもあります。愛というプリズムの下でそれを見たとき、全てが美しく感じます。

今、私たちはそれぞれの仕事と生活を持っていますが、青葉奨学会の事務局の方々や友人たちに再会すると、私たちは常にそのような美しい思い出と、まだ古びてはいない夢に慰められます。瞬間ごとに、一呼吸ごとに愛を感じます。私たちは美しい日々を過ごし、成長し、いつも自分を愛してくれる人がいたからです。だからこそ、私たちは温かく、物質的にも精神的にも確固とした生活ができます。そして、今手にしているものを大切に作る時間、愛する瞬間の価値をより理解できるのです。

そして、一つ確実なことは、私がこのような生活ができるのは、青葉奨学会の事務局の皆さん、私の里親さま、子ども基金の皆さん、青葉奨学会の友人たちのおかげだということです。

私の心の中の感謝を全て言い表すことはできません。感情がこみ上げるとき、言葉は無力です。ただ、ただここに書けるのは、私の最も深い感謝の気持ちを差し上げるということだけです！

私が今日あるのは



チャン・ティエン・ティン・チャン

まず、子ども基金の設立20周年お

めでとうございます。

私は中学4年生から大学卒業まで(1997~2004年)青葉奨学会にて子ども基金の奨学金をもらっていました。当時、私のような田舎での貧しい生徒には、学費と学習道具を支払うために十分な奨学金でした。里親さまは私が大学1年生の頃にベトナムを訪問されました。私は本当に感動し、それは精神的には何にも比較することができないと思います。現在里親さまは九州に住んでいて、今でもまだ連絡しています。私にはこれが祝福と幸福だと思います。

里親さまと奨学会の皆さまの助けのおかげで、私は2004年に来日させてもらい、日本で初めて子ども基金の皆さまに会う機会がありました。この旅について、私は成田空港で待つ

ていた里親さまの心配そうな姿を忘れません。この旅から、日本への留学と就職の夢が頭の中に表示されました。その夢は実現され、現在日本の会社で働いています。私が今日あるのは家族以外に里親さまと奨学会のおかげです。本当にありがとうございます。

現在、ベトナムでたくさんの貧しい生徒が子ども基金の奨学金をもらっています。これはこの活動が効率的だと証明しているのだと思います。これからも発展していくことをお祈りしています。



2016年度「春の木運動」のお知らせ

ベトナム子ども基金の皆さま、2016年度も「春の木運動」を行います。

最近、テレビや観光で注目されているベトナムですが、ホーチミン市やハノイといった都会の風景は、ベトナムの実情を表しているとはいえません。農村や高原の小さな町の人々は、毎日不慣れた生活を強いられています。特に冬の生活は厳しいものがあります。日本に比べると気温的に寒さは感じられませんが、生活していると骨の芯まで冷たくなる寒さです。

家は木造で隙間だらけ。風が右から左へと吹きぬける寒さは体を貫くほど寒く感じます。当然ながら暖房器具はなく、あったとしても意味はなく、学校へ行っても職場へ行ってもどこへ行っても寒さしか感じられません。学生はビニールかっぱを羽織って勉強しています。本当に寒い日は休学になるくらい寒さが厳しいです。

このような地域の子どもたちに、この手紙を通じて日本の皆さまに呼びかけていただき、少しでも多くの子どもに新しい服を贈り物として届けたいと思っております。

コーヒー一杯のお金でベトナムの子どもに大きな喜びを与えることができます。大きな金額でなくてもかまいません。気持ちを込めたお金でベトナムの子どもたちを温かく見守っていただけたらと思います。



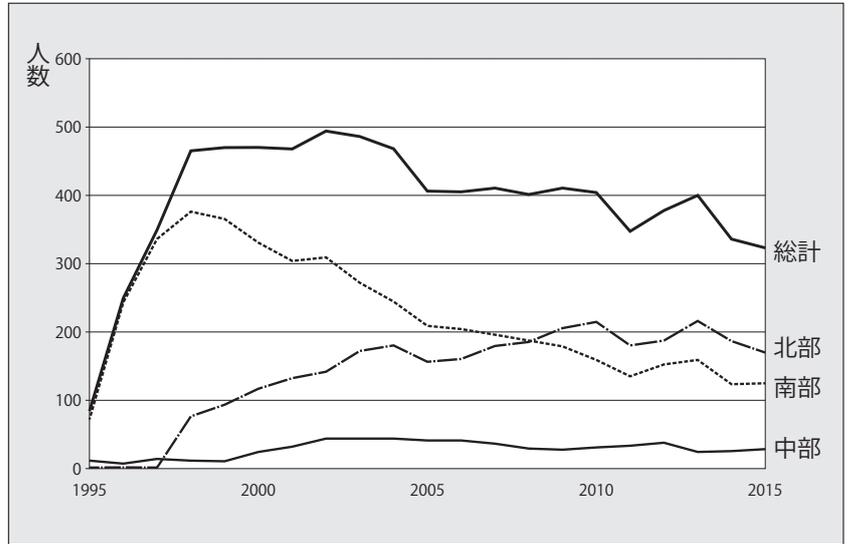
2016年度「春の木運動」実行委員会
ドンズー日本語学校
校長 グエン・ドク・ホウエ

* 同封の振込用紙をご利用ください。

数字で見る20年

数字とグラフから読み取れること

- (1) 発足の直後に里子数が急激に増加したこと。
- (2) 里子数のピークは2002年の495人であること。
- (3) その後は400人前後で推移していること。
- (4) 初めは南部、特にホーチミン市に集中していたこと。
- (5) 2009年あたりに北部が南部を逆転していること。
- (6) 中部は一貫して数が少なく、変化がないこと。



青葉奨学金 省別支援実績(1995-2015)

地域	年	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	小計	
北部	VINH PHUC						10	10	14	14	14	13	11	12	10	14	14	11	11	12	9	11	190	
	NAM DINH				56	57	56	57	57	69	71	56	61	61	62	62	59	48	57	61	49	42	1041	
	HAI DUONG											1		5	6	11	22	23	27	28	26	21	170	
	TP. HA NOI		1		15	37	40	45	31	33	37	34	27	36	34	40	43	35	29	29	21	17	584	
	HUNG YEN				6		11	10	10	20	20	18	18	18	14	14	14	10	7	21	20	22	253	
	THAI BINH							10	10	15	14	11	16	19	26	30	32	24	27	26	27	20	307	
	HA NAM									12	12	12	12	13	12	12	13	12	14	16	16	19	188	
	TP. HAI PHONG									8	9	12	11	14	16	21	22	17	17	16	23	19	18	223
中部	DAK LAK							10	11	10	10	10	10	10	7	10	10	6	9	11	8	8	140	
	NGE AN					1	11	10	15	12	12	12	12	11	10	10	9	5	4	1	1		136	
	HUE	10	7	14	12	9	12	12	18	11	12	9	9	6	2	2	2	2	5	4	3		161	
	DA NANG					1	1																2	
	KON TUM									10	10	10	10	10	10	5	10	10	10	9	3	5	112	
	QUANG BINH																		10	10		10	15	45
	AN GIANG										10	10	8	9	9	8	7	4	10	10	10	9	9	113
	BA RIA VUNG TAU																					1	1	2
南部	BEN TRE		1	28	31	32	31	30	31	26	24	22	20	16	12	9	9	8	9	9	10	10	368	
	BINH PHUOC								14	14	14	7	5	7	6	5	5	3	10	8	3	2	103	
	BINH THUAN					5	5	5	8	7	7	6	5	4	3	7	7	6	6	6	5	8	100	
	CA MAU			21	23	23	21	18	21	21	19	19	18	18	19	19	19	12	12	11	10	8	332	
	TP. CAN THO											1	3	1					4	7	3	1	20	
	DONG NAI														5	5	5	5	6	6	9	8	12	61
	DONG THAP															2	1	1	1	1	1	1	1	9
	LONG AN				25	25	25	26	37	27	37	38	47	49	48	41	37	37	38	42	36	27	642	
	SOC TRANG									10	9	8	8	8	7	5	4	2		1		1	63	
	TAY NINH								6	6	6	6	10	7	7	8	7	7	7	5	3	3	88	
	TIEN GIANG				12	12	12	11	15	12	18	14	15	20	16	20	20	19	17	14	8	2	257	
	TP. HO CHI MINH	73	242	288	285	268	236	214	177	128	90	70	55	42	49	47	37	14	24	29	22	30	2420	
	TRA VINH									10	10	10	9	9	5	4	4	10	9	7	5	5	97	
	VINH LONG																						5	5
	合計		83	251	351	465	470	471	468	495	486	468	406	405	411	401	411	404	348	379	400	336	323	8232

●事務局から

種別	名称	会費	内容	総会議決権
	運営会員	年額1口 20,000円 (学生:10,000円)	主に会の運営に関わり、事務局作業などをしながら子どもたちを支援する。(学生は年会費半額)	あり
基金 支 援 会 員	里親基金	年額1口 20,000円	特定の子どもに「里子」として奨学金を支給する。ベトナム青葉奨学会から、子どもの家庭状況を説明する履歴票が届き、里子との手紙のやりとりができる。	なし
	里親学生基金	年額1口 10,000円	同上(学生対象)	なし
	一般基金	年額1口 12,000円	子どもたち全体の「里親」という関係を想定している。通信を通じて子どもたちの様子を報告する。	なし
	法人基金	年額1口 50,000円	一般基金に準じる(株式会社等の法人対象)。お名前を通信・ウェブ等でご紹介。	なし
	賛助基金	自由	一般基金に準じる。金額、回数などいっさい自由。	なし
	学校建設黄梅基金	応相談	青葉奨学会と相談の上、ベトナムの辺地に学校を建設する。該当学校に黄梅奨学金を併設することも可能。	なし
	個別黄梅基金	300,000円以上	年に1度、預金利子を奨学金とし、支給する。基金の名前、支援地域等、相談の上決定する。	なし
	ベトナム黄梅基金	10,000円以上	複数のベトナム子ども基金会員で基金を設立、年に1度、預金利子を奨学金とし、支給する。	なし

◆ベトナム子ども基金へのご寄付は、下記の口座にお願いいたします。

口座名(共通) 特定非営利活動法人ベトナム子ども基金 (カナ): トクヒ ベトナムコドモキキン
基金支援会員(里親基金・里親学生基金・一般基金・法人基金・賛助基金)

郵便振替 00100-6-546799 みずほ銀行駒込支店 普通: 1121865

基金支援会員(学校建設黄梅基金・個別黄梅基金・ベトナム黄梅基金)

郵便振替 00130-4-552361 みずほ銀行駒込支店 普通: 1121873

運営会員

郵便振替 00100-6-546799 みずほ銀行駒込支店 普通: 1121865

◆「ベトナム子ども基金のつどい」のご案内

毎月第3土曜日にどなたでも参加できる「つどい」を開催いたします。「つどい」の内容は下記の通りです。

1. ベトナム人留学生、元留学生の話を聞く

2. ベトナム子ども基金の活動について話し合う

- 2016年2月20日(土) 10:00~16:00 文京区国際交流フェスタに参加のため、会場は文京区シビックセンターになります。

- 2016年3月19日(土) 14:00~16:00 アジア文化会館

ご参加お待ちしております(会場・時間など変更する場合がございますので、事前に事務局までメール、FAX、電話等でご連絡いただければ幸いです)。



フェイスブック見てください!

事務局の様子、ベトナムでの子どもの様子など掲載しております。一度のぞいてみてください!

<https://www.facebook.com/vnkodomokikin>